

# 今月の作業

菊はとても強い花ですが、反面デリケートな面もあります。皆様のこまめな手入れで未永く可愛がってください。

*Work of the month*

## 1月

January

### 植えつける土について

毎年咲く菊の下の葉が枯れたり、花が小さくなっていませんか。これは植えたままにしているのが原因の連作障害です。菊は多年草ですが連作を嫌う植物です。毎年春になると芽を出しますがだんだん見ごたえのない花になってきます。できれば植える場所を毎年変えたり土をすべて入れ替えれば良いのですが、難しい場合は新しい土と日光にあてて消毒をした古い土を半分づつ混ぜたり、土壌改良剤を使用したりすると良いですよ。



## 2月

February

### 親木の予防

寒い時期が長く場合は保温をするためビニールで覆いを行います。多湿になると病気が発生しやすくなりますので換気が難しい時期ですが日中の暖かい時はなるべくビニールをとって換気を行いましょう。また殺菌剤は様々な病気の予防のために定期的に散布してください。

**挿し芽を行うときの注意**  
挿し芽を行う土は肥料分の無い、水はけの良い砂地の物を使用します。水は挿し芽をした後十分に与え、その後はなるべく少なくし、どうしてもおれる時は霧吹きで葉が濡る程度に与えます。水の与えすぎは茎が腐る原因にもなります。



## 3月

March

### 7月咲の定植(春の植付)

20日頃が適期となります。日当たりの良いところに植えつけましょう。植えつけた後は十分水をやり、挿し芯は4月の初め十分根付いてから行います。

**春先の手入れについて**  
3月の初めごろになると越冬した株から多くの芽が出てきます。まずその先端を一度摘芯して新しい芽を伸ばし挿し芽を探る準備をします。また春先の寒い時期は保温に注意が必要で、夜間等気温が低くなる時はビニール等で覆いを行います。



## 4月

April

### 8月咲の定植

20日頃が適期となります。植えつけた後は十分水をやり、寒冷紗等で10日間位日よけをします。挿し芯は5月の中旬です。

### 害虫に注意

暖かくなリアブラムシ等害虫の発生が多くなります。何種類かの薬剤をローテーションを組んで散布するようにしましょう。



## 5月

May

### 9月咲の定植

20日頃が適期となります。植えつけた後は十分水をやり、寒冷紗等で10日間位日よけをします。挿し芯は6月の中旬です。

### キヌイカミキリに注意

4~5月にかけて新芽の部分がか急にしおれてしまう症状はキヌイカミキリが原因です。定期的にはこの産卵期のみにかまれる症状で防除の特効薬はありません。定期的な殺虫剤の散布を行うか、防虫ネットを敷せて防いでも良いですよ。



## 6月

June

### 10月咲の定植

15日頃が適期となります。有機肥料を十分に含んだ、日当たりの良いところに植えつけましょう。植えつけた後は十分水をやり、寒冷紗等で10日間位日よけをします。

### 梅雨時期の管理について

梅雨時期は湿度も上がり病気が発生しやすくなる他、薬剤散布のタイミングも難しくなります。下葉を何枚か落として通気性を良くしたり、水はけの良い土作りを行い、白サビ病や根腐れを防止しましょう。



## 7月

July

### 11月・12月咲の定植

10日頃までが適期となります。植付後は十分に水をやり、寒冷紗等で10日間位日よけをします。少し早い時期ですが暑さで苗が立ち枯れるのを避ける為寒菊(12~1月咲き)まで植付を行い挿芯の時期をずらします。

### 暑さよけについて

梅雨が終わり本格的な暑さがやってくると菊も花が咲かなかつたり、伸びなくなったり、根に障害が出たりする事があります。暑さが厳しいときには寒冷紗やよしず等でよけをし土の温度を下げ暑さを和らげるようにしましょう。



## 8月

August

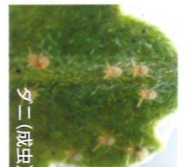
### 夏菊の切り戻し

5月~7月までに咲いた夏菊はお盆の前後に一旦切り戻し、9月中旬頃から挿し芽を探るための準備を行います。この時茎が伸びている場合は5cm位に切り戻します。8月咲きの場合は開花後際より15cm位残して切っておきます。



### 害虫の発生が多くなります

アブラムシ、ハダニが多く発生します。定期的な薬剤散布が必要となります。特にハダニは葉の裏側につきまので殺ダニ剤を用い薬剤が裏側に付くように散布します。



## 9月

September

### 夏菊の挿し芽

8月に切り戻した夏菊の株より芽が伸びてきますので中旬頃から挿し芽を探ります。挿し芽後は十分水を与え寒冷紗等で日よけを行います。2週間ぐらいで発根しますので日よけをとりその後定植します。



### 挿し芽をとる時の注意

夏菊の芽の採り方は古い株の葉の付け根からもち取るようにします。これは挿し芽をする際に新芽の付け根にある双葉が土の中に入るよう深く挿し芽をし、そこから冬至芽が伸びてくるためです。



## 10月

October

### 夏菊の定植

9月に挿し芽し発根させた苗は発根次第、畑やプランター等に植え付けます。緩効性肥料を多めに入れ、用土と十分混ぜ合わせておきます。寒さの厳しいところは鉢やプランターで越冬し、3月上旬頃の暖かくなってきてから畑に移していただいても構いません。



### マルチの使用について

園芸用マルチは白色と黒色があります。菊の場合、秋に植付をし越冬するときは黒色、春に植付ける場合は白色を使用します。黒色は地温を上昇させる効果があり、逆に白色は地温の上昇を防ぐ効果があります。またどちらも草が生えにくく、乾燥を防ぐ働きがあります。

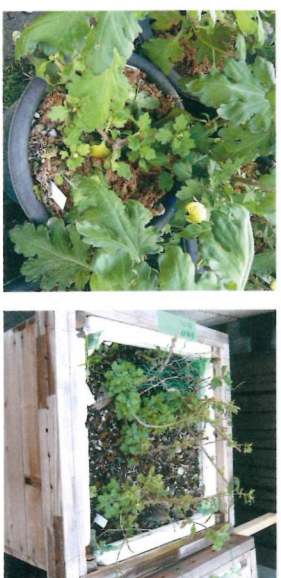


## 11月

November

### 秋菊の越冬準備

11月頃までに開花が終わった秋菊は地際より15cm位残して上部を切り取りそのまま越冬させます。鉢植えやプランターで栽培した場合は緩効性の肥料を与えそのまま越冬します。比較的寒さに強いので、霜が降りる時期にはビニール等で覆い保温してやりませぬ。



## 12月

December

### 夏菊の越冬準備

夏菊は寒さには強い性質ですが、寒さが厳しい年にはビニール等で覆い保温を行います。良い冬至芽を出すために12月下旬頃まで寒さにあて、その後ビニール等で覆いを行います。

